

平成30年度 京都市立向島中学校 教育指導計画

1 教育目標及び子ども像・教職員像・学校像

教育目標

豊かな人間性の育成を目指し、互いの人権を尊重しあい、
若き日に心を磨き 若き日に体を鍛え
若き日に知識を広め 若き日に友と交わり 未来の糧を創ろう

目指す子ども像

○何事も全力で取り組める生徒 ○すべての活動に喜びを感じられる生徒
○自分を大切にし、仲間を思いやれる生徒
○自分に誇りと自信をもっている生徒

目指す教職員像

○何事にも全力で取り組める教職員 ○すべての活動に喜びを感じられる教職員
○互いの立場や仕事を理解し合い、共通の目標に向かってチームになれる教職員
○どんな時も生徒のことを第一に考えて行動できる教職員

目指す学校像

○生徒と教職員ともに、常に笑顔と活力があふれる学校
○生徒の学びと育ちを、教職員がしっかりと支える学校
○生徒と教職員との信頼関係に基づく教育活動を、常に保護者や地域が応援する学校

2 学校経営方針

◎教師集団・・・意欲をもち、切磋琢磨できる教師集団になる

「わが向島中学校」という意識を一つに結び、教職員の力を結集して充実した学校を創造する。

- 全教職員が、互いの良さを認め合う
- 「チーム向島」で学校づくりに取り組む
- 日常のコミュニケーションを大切にした職場環境づくりに努める

◎学級づくり・・・温かな学級、励まし合える仲間のいる学級をつくる

一人ひとりの生徒に「居場所」のある居心地のよい温かな学級を作る。互いに認められ、個々の自己有用感が高い学級を作る。

- 生徒が一人ひとりの良さを認め合う
- 何事にも一生懸命に取り組み、互いに高め合う
- 自分で判断し、主体的かつ意欲的に行動できる
- 感謝の気持ちをもち、他者への思いやりがある

◎学力向上・・・生徒主体の授業、わかる授業をつくり学力を向上させる

研究主題「学ぶことの喜びやおもしろさ楽しさを感じられる授業づくり」

今年度も全教職員で主体的に本課題を探究する。そのために「話し合い活動・学び合い活動」など、生徒のアウトプットの場面を多くした授業づくりに積極的に取り組み、クリティカルシンキングによる授業づくりを実践する。また、学習意欲の向上と家庭学習の習慣をつけさせるための取組を一層研究し推進する。

- 自らの授業を顧み率先して改善する
- 生徒が自ら課題を見つけ自ら解決する授業づくりを工夫する

○家庭学習と学校での授業を繋いだ授業づくりに工夫する

◎規範意識・・・人のことを思って、ルールやマナーを大切にする生徒を育てる

「外からの指導」（生徒指導）と「内からの指導」（道徳等）によって、自らを律しつつ自己を高めようとする生徒を育てる。

○「生徒十訓」の定着を推進する

○道徳教育の研究を更に推進し、豊かな人間性を身に付けさせる

3 学校教育の計画

（１）「確かな学力」の育成に向けて 『学力向上プラン』

重点目標

「授業の工夫と改善」 および「家庭学習の定着」

具体的な取組

○授業の中に、話し合い・教えあい・学びあいなどのグループ学習を積極的に取り入れる。

○生徒のアウトプットの場を増やすような授業を工夫し、クリティカルシンキングの手法を取り入れた授業を展開する。

○年間３５時間の「道徳の授業」を通じて、発言の喜びや人の意見を聞く喜びを感じさせる。

○静かな学習への入りを促し、学習習慣を徹底させるため、毎日１０分間の朝読書を行う。

○英語の学力向上を目指して、MUKATAN（向島単語検定）の取組を継続する。

毎日英単語を覚えてくる。週に１回まとめテストを行う。検定制度を設け上級を目指す。

○各教科において自学自習ノートの取組を継続し、家庭学習の習慣を身に付けさせる。

今年度はオリジナル自学自習ノートをやめ、家庭学習課題を毎日１枚（５教科で分担）提示し、やりきらせ、家庭学習の充実を図っていく。週末には作文の課題を提示し、読解力の向上も視野に入れた家庭学習を展開していく。

（２）「豊かな心」の育成に向けて

重点目標

「道徳教育の充実」 および「人権教育の充実」

具体的な取組

・道徳教育の充実に関して

○道徳の時間を３５時間確保するとともに、道徳の時間を中心とした道徳教育を充実させる。

○道徳の授業形態（学年道徳・全校道徳・ローテーション道徳など）をさまざまに研究する。

○来年度の道徳教科科に向けて、指導と評価の一体化を図っていく。

○３０年度は試行として、学期ごとの評価を行い、保護者に提示していく。

○「生徒十訓」を基軸とした規範意識を醸成するとともに、学級づくりと連動させた仲間づくりに力を入れる。

・人権教育の充実に関して

○人権教育のあり方や人権学習、再構築する。すなわち、国際理解教育と外国人教育の同異性について、本校としての解釈を明確にして取り組む。また、同和教育と外国人教育の歴史と現状をどのように関連させ、どの程度まで考えさせることが可能なのか考え直す。

○いじめについて深く学習するとともに、いじめの起こらない集団を作ること積極的に取り組む。

(3)「健やかな体」の育成に向けて

重点目標

「基本的生活習慣の見直し」および「部活動の充実」

具体的な取組

- ・基本的生活習慣の見直し
 - 「早寝・早起き・朝ごはん」の重要性を生徒及び家庭に向けて説き続ける。
 - 「睡眠」に関してのアンケートを実施し、睡眠と生活について考察し、生徒・家庭に発信していく。
 - 遅刻者に対して徹底した指導を行う。(把握の仕方と対処の方法を徹底する)
 - 保護者に対して、懇談会や保護者会で「食」と「生活習慣」の重要性について啓発を進める。
- ・部活動の充実
 - 部活動の目的は「人格形成」であることを生徒と教職員で確認する。
 - 練習には必ず顧問がついて指導する。
 - 部活動を通じて心身を鍛え、ストレスを解消するなど、心身の健康を図る。

4 「小中一貫教育」における9年間の教育目標と目指す子ども像

9年間の教育目標 (中学校ブロックの小・中学校で共有すること)

一人ひとりの人間性を磨き、未来を拓く力の育成 ～果敢に挑戦！知らない自分に会いに行け！～を学校教育目標とし、

目指す子ども像 (中学校ブロックの小・中学校で共有すること)

- | | | |
|--------------|------------|-------------|
| ○ひたむきに学び続ける姿 | ○たくましく誠実な姿 | ○豊かに生き合う姿 |
| ○協力し学び合う姿 | ○挑戦し高め合う姿 | ○豊かにかかわり合う姿 |
| ○いきいき学ぶ姿 | ○やさしくすなおな姿 | ○なかよくつながる姿 |

自校の具体的な取組

いよいよ、来年4月の向島秀蓮小中学校開校に向けて、プロジェクトチーム改め準備委員会を立ち上げ、各分掌・各分野で内容についての検討を具体的に進めていく。また、一貫校に向けて、教科ごとのカリキュラム研究をさらに行っていくが、特に4年前から取り組んでいる小中一貫における英語教育に力を入れていく。中学校教員の小学校への出張授業を始め、タブレットPCを活用した授業の工夫など、英語教育の充実と英語の学力向上の方法についてさらに研究を進め、率先して全市に向けて発信していく。また、タテ持ち研究を1・2年生全教科で行うことによって、教科会の充実を図っていきたい。